

## プロジェクト研究所 業績報告書（最終報告）

## 【研究プロジェクトの名称】

実践キャリア形成プロジェクト

## 【研究所の名称】

実践女子大学女性キャリア形成研究所

## 【研究所員】

研究所所長	人間社会学科	竹内美香（2015-16 年度）
	人間社会学科	広井多鶴子（2017 年度）
副研究所長	人間社会学科	松下慶太（2015 年度）
	生活文化学科	高橋桂子（2016 年度）
	生活環境学科	牛腸ヒロミ（2017 年度）
研究員	国文学科	池田三枝子
	英文学科	志渡岡理恵 村上まどか
	美学美術史学科	織田涼子
	食生活科学科	数野千恵子
	生活文化学科	細江容子 松田純子
	現代生活学科	須賀由紀子
	教職課程	柏崎秀子
	人間社会学科	駒谷真美 竹内光悦 山根純佳
	現代社会学科	篠崎香織 山下早代子
	大学教育研究センター	深澤晶久
	日本語コミュニケーション学科	高瀬真理子
	英語コミュニケーション学科	三田 薫
	キャリアセンター	串崎扶美子
女性労働協会	鹿嶋 敬（元人間社会学部教授）	

## 【設置期間】

2015 年 4 月～2018 年 3 月 28 日

## 様式 15-1

### 【研究課題（テーマ）】

- ①実践女子大学・短期大学の卒業生の就職・就職後の就業実態に関する調査研究課題抽出
- ②実践卒OGとのネットワークの構築
- ③学生を対象にした就職講演会等の開催
- ④一般財団法人女性労働協会とタイアップしたワーク・ライフ・バランスの研究
- ⑤企業に実践女子大生をアピールする方策の研究

### 【研究概要】

すべての学生の就業とその継続に向かう自己効力感や意欲を高めるための女性支援教育プログラムを開発することを目標としている。

実践女子大学には、自立自営し得る女性を輩出する教育機関としての歴史と伝統がある。これを継承し、次代を築く具体的な取り組みを行うのが、「女性キャリア形成研究所」の使命である。2015年度より開設された本プロジェクトは多様な内容で始動しているが、その中には、在学生だけでなく、卒業生のアフターケア、在学生と卒業生の交流機会を増やす企画なども含まれている。学部を超えた教職員がメンバーとしてプロジェクトに参加し、幅広い取り組みを実現している。

実践女子大学が「品格高雅にして、自立自営し得る」人材を育成し続ける教育機関であることを、ひろく企業・社会に発信出来たら、それがプロジェクト研究所の本懐というものであろうと考えている。

### 【研究実績（研究員の活動実績含む）】

#### 2015年度

##### 1. 女性キャリア探究 ランチタイム・トークシリーズ

多様な業界で着実に就業を継続し、実績を積み、社会的貢献を続けている女性を講師に招いて、それぞれの仕事、キャリア・パス、展望、学生たちへの言葉などを語っていただく講演会を開催した。前期は渋谷キャンパスで、後期は日野キャンパスで、それぞれ可能な限り学生たちが集合しやすい平日の昼休みなどの時間帯に開講し、好評を得た。

〔渋谷キャンパス〕（幹事：山下早代子教授）

- ①2015年4月28日 読売新聞東京本社記者
- ②2015年5月26日 法廷通訳者・本学人間社会学部英語学担当
- ③2015年6月30日 JICA 国際協力機構人事部人事課
- ④2015年7月14日 オランダ政府観光局日本地区局長
- ⑤2015年10月18日 TBS アナウンサー 渋谷常磐祭にて実施

〔日野キャンパス〕（幹事：須賀由紀子教授 他）

①2015年 10月14日（水）NPO 法人子どもへのまなざし代表理事）

「子どもへの思いをかたち～地元で活躍する女性の声を聞く～」

②2015年 10月26日（月）助手さんトーク（生活環境学科）

③2015年 11月7日（土）常磐祭@日野キャンパス “キャリア探” スペシャル・トーク

第1部 先輩からのメッセージ

生活環境学科卒業生、生活文化学科卒業生

第2部 トークショー

キャスター「マスコミで働くということ」

④2015年 11月23日（月）助手さんトーク（生活環境学科）、

生活文化学科助手）

## 2. 学内外の大学生を対象とした調査「大学生の就業意識と性別役割観に関する調査」

（主担当：竹内美香教授、高橋桂子教授）

2015年度調査では、大学生のキャリア展望と進路探索に向かうための自己効力感醸成に及ぼすジェンダー意識(ジェンダー観)の影響可能性について、進路探索における不安要因や困難に対する対処の自己効力認知などの個体的要因を含め検討することを目指して、調査票を作成し配布・回収した。少数の男子も含む有効回答 1032名の都内・都下の大学生の回答を収集することができた。

## 3. OG 懇談会の実施（渋谷・日野） キャリアセンターと共催

キャリアセンターは2月にOG 懇談会を開催してきたが、2015年度は、キャリア形成研究所との共催という形で開催した。

〔渋谷キャンパス〕：2016年2月19日 OG 協力者 22名

〔日野キャンパス〕 2016年2月27日 OG 協力者 21名

## 4. 「女性活躍推進プロジェクト」

松下慶太准教授が、企業の方などを招いて、女性の職場での活躍推進について考えるセミナーを開催した。

2016 年度

### 1. 女性キャリア探究 ランチタイム・トークシリーズ

渋谷日野両キャンパスで、様々な分野で活躍する女性を招いてお話を伺った。日野では加えて「助手さんトーク」(3回)、「内定者トーク」(6回)、「社会人トーク」(4回)開催した。参加・受講した学生たちの反応も積極的であり、卒後の進路についての関心の幅を広げる取組となった。

〔渋谷キャンパス〕

- ①5月19日「あなたにお似合いの色をご存知ですか」
- ②6月17日「心理セラピストの仕事とは？ あまりかと日本の教育と資格の違い」
- ③7月5日「資生堂 BC が世界中の美しさをリードする！」

〔日野キャンパス〕

- ①助手さんトーク (3回) 6月27日、7月11日、10月3日
- ②内定者トーク (6回) 7月6日、9月28日、10月12日、10月26日、11月9日、16日
- ③社会人トーク (4回)
  - 6月29日：日野市企画部
  - 10月22日：ヤフー株式会社
  - 10月26日：新潟伊勢丹、住友林業モームテック
  - 11月2日：日野市総務課

### 2. 調査

竹内美香教授が、学内外の大学生を対象とした調査「大学生の就業意識と性別役割観に関する調査」を行った。進路活動達成度自己評価を従属変数とした就業自己効力感、レジリエンス特性のパス解析という形で二次報告書をまとめ、2016年度の本研究所報告書に掲載することができた。

山根純佳准教授により、所沢市で問題となった育休による保育園の退園制度に関する調査が行なわれた。

深澤教授が「産業連携機構九州」と連携して、学生のダイバーシティに関する意識調査を行った。

### 3. OJプロジェクト

(幹事：高橋桂子教授)

OJプロジェクトの「OJ」は、OGならぬOJ (JはJissen) という意味である。学生が社会で活躍する本学の卒業生の職場に出向いて、仕事の内容やキャリア形成に関してインタビューを行ない、その内容や感想をレポートにまとめるという取組みを行なった。2016年6

## 様式 15-1

月に研究所のメンバーで京都女子大学を訪問した際に、同大学でそうした取組みをしていることを知り、それを参考にして 2016 年後期、日野キャンパスで実施した。2016 年度はキャリアセンターから全面的に支援を受け、5 名の卒業生の協力を得ることができた。

### 4. 関西女子大学視察

関西の主要な女子大学を訪問し、女子大学としての戦略、広報活動、学生への学業や教育支援、キャリア教育支援のあり方について聞き取り調査を行った。京都女子大学は女子大学で唯一、法学部を設置した大学だが、学生募集も就職も好調ということだった。

また、各大学が学生の力を引き出し、活用する取組みを行っており、本学でも参考にすべき点が多かった。たとえば、京都女子大学は喫茶部の設計や運営を学生とともに進めており、同志社女子大学は上級生が新入生の学生生活をサポートする仕組みを作っていた。武庫川女子大学は図書館が、授業だけでなく、学生の自主的な活動や就職活動、資格取得など、あらゆる学習のセンターとして位置づけられていた。

2016 年 6 月 6 日 京都女子大学 同志社女子大学（広井、細江、高橋、村上）

2017 年 3 月 13 日 武庫川女子大学 神戸女学院大学

（広井、牛腸、数野、細江、須賀、高橋）

### 5. 家庭科教員ネットワーク構築にむけたキックオフ講演会開催

講師 全国高等学校家庭クラブ連盟、家庭クラブ事務局長

11 月 13 日、日野常磐祭にて実施（担当：柏崎）

### 6. その他の取組み

①小商い（新潟県十日町視察、学生 5 人が参加。担当：細江、高橋）

②立教大学で開催された「ママパパカレッジ」への学生の参加・支援（担当：高橋）

## 2017 年度

### 1. 女性キャリア探究 ランチタイム・トークシリーズ

〔渋谷キャンパス〕（幹事：山下）

渋谷キャンパスでは、今年度はじめて人間社会学部の卒業生を招いて、ランチタイムトークを行なった（②、③）。また、ランチタイムトークと OJ プロジェクトを合体させ、ランチタイムトークの後、学生によるインタビューを行った。

①5 月 23 日「人生のつくりかた」

②6 月 13 日「私の職場は高度 12000 メートル」

## 様式 15-1

③7月4日「ママは営業係長、仕事と子育てで大忙し！」

〔日野キャンパス〕

- ① 助手さんトーク (3回) 6月28日 7月26日 10月11日 (担当：牛腸)
- ② 内定者トーク (4回) 7月19日 9月27日 10月4日 10月18日 (担当：細江)
- ③ 社会人トークシリーズ (3回) 10月25日 11月8日 11月14日 (担当：須賀)

## 2. OJプロジェクト

〔渋谷キャンパス〕

- ① 10月14日 (渋谷常磐祭) 昨年卒業した文学部の学生7人に、同学部の学生10人がインタビュー (担当：織田)
- ② 11月17日 リクルーティングアドバイザーの卒業生を英文学科の4年生3人がインタビュー (担当：村上、志渡岡)
- ③ 11月20日 小学館集英社プロダクションに勤める卒業生を美学美術史学科の学生3人がインタビュー (担当：織田)
- ④ 12月11日 橋本総業に勤める卒業生を人社の学生6人がインタビュー (担当：広井)
- ⑤ 12月2日 イトーヨーカドーに勤める卒業生を人社の学生5人がインタビュー (担当：広井)
- ⑥ 12月16日 さわやか信用金庫に勤める卒業生に英文学科の学生3人がインタビュー (担当：村上)

〔日野キャンパス〕 (幹事：高橋)

- ① 5月30日 幼児保育専攻の学生が、日野社会教育センターに勤める卒業生にインタビューを行った。(担当：松田)
- ② 11月10日 日本アクセス 食生活科学科の学生が、会社を訪問して卒業生にインタビューを行った。(担当：数野)
- ③ 11月6日 生活環境学科と生活文化学科の学生が、アイリスオーヤマに勤める卒業生を訪問し、インタビューを行った。(担当：牛腸)
- ④ 12月21日 食生活科学科の学生が、明治の研究所に勤める卒業生を訪問し、インタビューを行った。(担当：数野)
- ⑤ 12月25日 生活文化学科の学生と現代生活の学生が、近畿日本ツーリストに勤める卒業生を訪問し、インタビューを行った。(担当：須賀)

## 3. ママ tomo パパ tomo カレッジ

(幹事：高橋桂子教授)

2017年9月24日、ベネッセ・コーポレーションたまひよ事業部と共催で、「共働き家

族の未来を創る」と題して、育児休業中の母親、父親を対象とした講演会やワークショップを開催した。200組以上の親と子が参加した。幼児教育専攻の学生が保育にかかわるなど、学生たちがボランティアとして活躍した。

〔午前の部〕

- オープニング講義「共働き家族のモヤモヤ解消！-家族社会学の視点から」講師：広井
- 「子どもが自分で食べたくなる！和食ごはんとお箸」講師：酒井治子先生
- 先輩ママトークセッション「両立・先輩の24時間」ファシリテーター：須賀
- 「パパの育児塾 子どもを伸ばす関わり方」講師：聖路加国際病院 草川功先生

〔午後の部〕

- 「ポジティブ社会学から紐解く新しい家族のありかた」  
講師：お茶の水女子大学 石井クンツ昌子先生
- 先輩ママトークセッション「保活・園選び」
- 「これからの教育」講師：ベネッセ教育総合研究所 渡邊直人
- 「幼児期からの英語教育？」講師：山下

#### 4. 就活応援ブック

須賀由紀子教授の指導のもとに、現代生活学科の学生たちが「学生目線」で「就活応援ブック」を作成した。2018年度の新学期に学生に配布し、キャリア教育の授業でも活用してもらう予定。

#### 5. 教職への就職支援

日野の常磐祭に、家庭科教員として活躍している本学の卒業生を招き、「女性キャリアとしての教職」と題して講演会を開催した。

2017年11月12日日 千葉県私立高校教員（担当：牛腸）

また、家庭科の教員採用試験の受験者を支援するために、2017年度、教職課程と共催で、二次試験の対策講座を3回にわかって開催した。（担当：柏崎）

#### 6. ダイバーシティに関する意識調査

深澤特任教授が、前年度に引き続き、本学と福岡女子大学、九州女子大学、筑紫女子大学を対象に、学生のダイバーシティ意識に関する比較研究調査を行い、分析結果をまとめた。調査の概要は以下の通りである。今後、論文として発表する予定。

〔研究の目的〕

ダイバーシティ推進、中でも女性の活躍は企業・国全体の喫緊の課題であり、これから社会で活躍を期待される学生のキャリア意識・働き方の意識の実態を調べるとともにそれらがどのような要因によって決定されるのかを分析し、今後の女性活躍の方策づくりへの提言や実践女子大学内のキャリア講座内容の検討にむけた一助とする。

## 様式 15-1

### 〔研究成果〕

- ・アンケート調査・分析の結果、実践女子大学の学生は、他大学と比較をして伝統的性役割志向が高い傾向にある。(伝統的性役割志向とは、女性はサポート業務に向いている等)
- ・また、IAT(無意識バイアス)の調査の結果も、実践女子大の生徒は女性と家庭との結びつきが強い傾向にある。
- ・IAT と働き方の志向性は有意な関係があり、出産結婚後も仕事を続けるといった回答群は、女性と家庭の結びつきが低い。
- ・また、男女の家事分担の理想や女性が小さなころは育児に専念した方がいいという価値観は、両親の家事分担と相関があることも判明した。

○なお、2017年度も竹内美香教授を中心に調査研究を行う予定だったが、主任業務が多忙をきわめたため、実施することができなかった。

### 7. その他の取組み

○生活文化学科が主催した「潜在保育士」を支援し、社会人を対象としたリカレント教育に取り組んだ。

2017年9月30日、10月7日、10月14日、10月21日

○キャリアセンターによるOJサポーターの交流会の支援

○就活応援会 人間社会学部と共催 2018年1月26日

○2018年3月8日に、高橋桂子教授が京都女子大学で開催された国際女性デー記念シンポジウム「地域社会における女性の活躍」に出席した。

○男女共同参画をめぐる政策動向に関する学習会

2018年3月18日に、鹿嶋敬女性労働協会会長から男女共同参画に関する現在の国の政策動向について話をしてもらい、本研究所の取組みについてディスカッションを行った。

### 【研究活動における成果】

#### 1. 雑誌、学会発表、図書等

竹内美香他『大学生の就業意識と性別役割観に関する調査』2016年3月

竹内美香他「女子大生の就業準備と心理社会的要因：キャリア自己効力感とレジリエンスは進路準備活動の進捗自己評価を説明するか」本研究所2年次報告書 2017年3月

山根純佳他『育休退園をめぐる親と子の葛藤と生活一所沢市の育休退園制度を考える』2017年2月

実践女子大学女性キャリア形成研究所『ママ tomo パパ tomo カレッジ@実践女子大学 共働き家族の未来を作る 実施報告書』2018年3月



## 2. 学生・生徒の教育及び支援に関する還元

本研究所は、学生のキャリア意識を向上させるために、様々な取り組みを行ってきた。したがって、本研究所の取り組みの多くが、学生の教育および支援のためのものと言っていい。

中でも、「ランチタイムトーク」は、社会で活躍している女性から気楽に楽しく仕事の話聞くことができるとして、学生に好評だった。渋谷キャンパスでは、様々な職業で活躍する女性を招くことで、学生の仕事に対する認識の幅を広げることを重視した。一方、専門的な職業につく学生が多い日野キャンパスでは、助手や就職が内定した学生、卒業生などから、大学での学び延長線上にある仕事について認識を深めるような活動を行った。

ランチタイムトークは大勢の学生を対象とした講演会形式であるのに対し、「OJ プロジェクト」は、数人の学生が卒業生からじっくり話を聞くという取り組みである。企業を訪問した場合には、仕事やキャリアについてよりリアルに考える機会になったものと考えられる。2016年度は学外で5回、2017年度には学内、学外合わせて11回実施した。OJ プロジェクトは京都女子大学が行っていた卒業生訪問を参考にして開始したもののだが、京都女子大学では業者の手がかなり加わっていたのに対し、本研究所では学生自身がインタビューを行ない、レポートを作成することとした。

また、本研究所では、学生の力を活用して様々な取り組みを行った。たとえば、ベネッセ・コーポレーションたまひよ事業部と共同で行った「ママともパパともカレッジ」では、学生は運営を手伝っただけでなく、子どもを育てながら働く父親や母親をサポートする経験を積むことができた。その他、生活環境学科の学生がデザインしたペットボトル「実践水」、現代生活学科の学生たちが「学生目線」で編集した「就活応援ブック」など、様々な取組みに学生の力が生かされている。

### 【研究内容の今後について】

本研究所のメンバーの多くが、2018年度に設置された「下田歌子記念女性総合研究所」の第2部門の「兼務研究員」であることから、2018年以降は同研究所の第2部門においてこれまでの活動を継続していく。下田歌子記念女性総合研究所は女性に関する総合的、学際的な研究を行う機関であり、キャリア形成に特化した研究所ではないが、本プロジェクト研究所の取組みは同研究所においても十分位置づくものと思われる。

これまで述べてきたように、本プロジェクト研究所では、学生のキャリア意識を向上させるための取組みが中心的な活動だったが、下田歌子記念女性総合研究所では、そうした活動に加え、これまでじっくりと腰を落ち着けて行うことのできなかつた調査研究を重視していきたいと考えている。まずは、深澤特任教授や竹内美香教授が行ってきた本学の学生のキャリア意識に関する調査研究を元に、本学の学生の意識調査や現状を分析していくことが課題となるのではないかと思われる。

## 様式 15-1

### 【総括（所感・達成度）】

本研究所には大学・短大の全学科の教員、教職課程、大学教育センターの教員、キャリアセンター部長が参加しており、これまでになく規模の大きなプロジェクト研究所となった。また、男女共同参画推進室や下田歌子研究所、生活文化学科、人間社会学部などと連携することで、全学的に様々な取組みを行なうことができた。こうした活動内容も組織も、これまで本学にはなかったことから、女性の社会進出を促進し、男女共同参画社会の実現をめざす本学において、女性キャリア形成研究所はきわめて重要な役割を果たしたと考えられる。

以上のように、この3年間、様々な活動を行なってきた。しかしながら、当初の構想からすると、まだまだ緒についたという段階である。とくに、卒業生に関する調査研究は、時間が限られ、事務組織もないプロジェクト研究所においては、困難な課題だった。この点に関しては、今後、「エンロール・マネジメント」やIR室、下田歌子記念女性総合研究所などが連携して、取り組むべき課題であると思われる。

### 【決算報告】

年度（西暦）	補助金額（円）	執行金額（円）
2015	2,700,000	1,336,331
2016	2,700,000	3,024,940
2017	2,700,000	2,501,663
合 計	8,100,000	6,862,934